

◇所蔵作品展◇

没後10年 川端謹次展

～光を包むマチエールを求めて～

川端謹次(1909～1998年)は、兵庫県氷上郡(現:丹波市)柏原町に生まれ、東京美術学校(現:東京芸術大学)で藤島武二の教室に学び、直接外光の下で自然を描写することや、波・海・雲のモチーフ、特に水の表現には厳しい指導を受けました。

その影響か、水辺の風景や、それを取り囲む空間や風景の描写は、生涯のテーマとなりました。

戦後は、神戸で高等学校の教鞭をとるかたわら制作に励み、兵庫光風会の前身となる朋光会の結成に参加、また、光風会展や日展に多く出品し、1955年には日展特選を受賞しました。そして生涯自然の限りない美しさを受れた彼は、「空間」と「深さ」を追求しつづけ、人々の心に残る作品を数多く残しました。

川端謹次没後10年になる今年、2000年に当館に寄贈された作品から、かつての美しい日本の風景をキャンパスに留めた川端謹次の風景画の魅力をご紹介します。



天の橋立  
1958



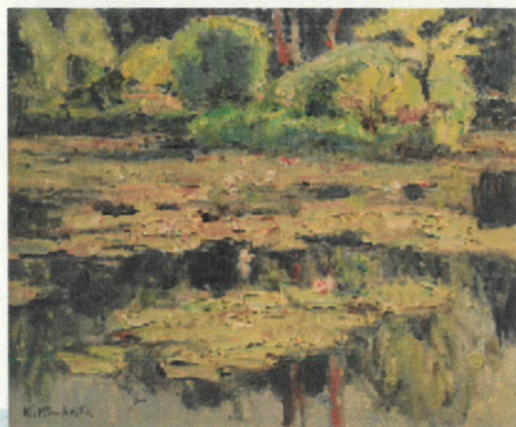
あひる  
1973



秋の高源寺  
1975



湖上旭日  
1982



睡蓮  
1966



街路樹(パルセロナ)  
1969